

太陽電池モジュール基礎架台

Solar Keeper

ソーラーキーパー

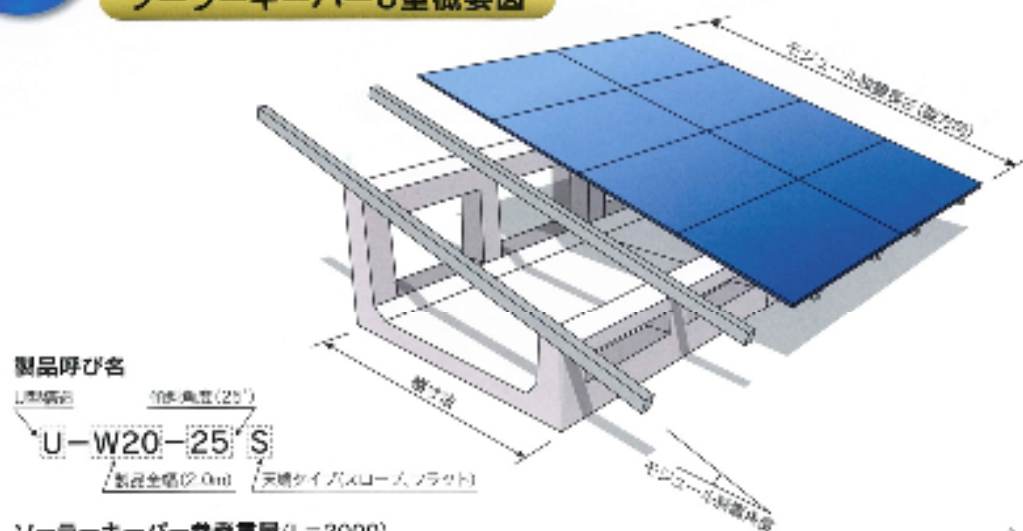


特長

Strong point

- 1 鋼製フレーム基礎架台と比較して耐久性に優れています
- 2 雑草の抑制効果もありメンテナンス費用を安価に抑えられます
- 3 様々なモジュール寸法に対応し取付けが容易です
- 4 基礎工を必要とせず整地のみで平地、休耕地、陸屋根に設置可能です
- 5 モジュールの取付け角度は物件ごとに任意に対応します

ソーラーキーパーU型概要図



ソーラーキーパー参考重量 (L=2000)

呼び名		モジュール設置角度				
		10	15	20	25	30
幅寸法 (m)	1,500 W15	1,250	1,271	1,293	1,316	1,341
	2,000 W20	1,552	1,579	1,608	1,639	1,672
	2,500 W25	1,853	1,887	1,923	1,961	2,003

※製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。 ※図面厚み t = 120mm の場合です。

Plan data

太陽光発電設備の架台強度の計算

設計上準拠した指針、基準等

建築基準法・同施行令他、施行細則及び日本建築学会の計算基準
JIS C 8955 太陽電池アレイ用支持物設計標準

荷重条件及び荷重の組合せ

荷重条件		区 分	
		一般の地方	多雪区域
工期	常時	G	G
	積雪時		G+0.7S
使用期	積雪時	G+S	G+S
	常風時	G+W	G+W
	常風時	G+D.35S+W	G+D.35S+W
	地震時	G+K	G+D.35S+K

風圧荷重

$$Wp = Cw \times qp \times Aw$$

Wp: 設計用風圧荷重 (N)

Cw: 風力係数

qp: 設計用速度圧 (N/m²)Aw: 受風面積 (m²) (アレイを構成する全モジュールの合計面積)

設置形態	風力係数 (Cw)		備 考
	正面	背面	
地上設置			傾斜が概数の場合には周囲条件は、左の値を中央部は左の値の1/2としてもよい。
	Cw(正面)	0	
	0.79	15°	
	0.67	30°	
	1.08	45°	Cw(背面)

地震荷重

$$Kp = kp \times G$$

(一般の地方)

$$Kp = kp \times (G + 0.35S)$$

(多雪区域)

Kp: 設計用地震荷重 (N)

kp: 設計用水平震度

G: 固定荷重 (N)

S: 積雪荷重 (N)

積雪荷重

$$Sp = Cs \times P \times Zs \times As$$

Sp: 積雪荷重 (N)

Cs: 分配係数

P: 雪の平均単位荷重 (積雪 1cm 当たり N/m²)

Zs: 地上垂直積雪量 (m)

As: 積雪面積 (アレイ面の水平投影面積) (m²)

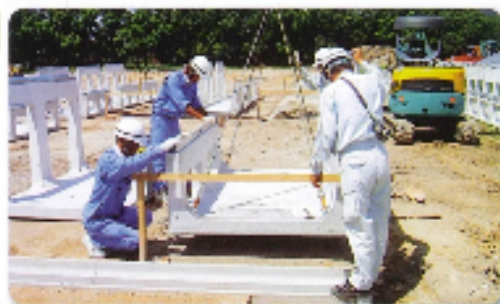
施工
手順

Construction procedure

1
基礎モルタル



2
製品敷設



3
設置状況



4
設置状況(製品連結金物)



5
モジュール金物取付



6
モジュール取付



施工
実績

Construction results

産業技術総合研究所九州センター

非住宅施工



産業技術総合研究所九州センター



民間



民間



住宅施工